

## 兵庫県も期待するベトナム人材の日本でのさらなる活躍と最新ベトナム経済状況 ホーチミンデスク 浅井 崇氏

### 1. 2024年ベトナム経済状況

2024年のベトナム経済は、製造業とサービス業の成長により第1四半期のGDPが前年同期比5.6%増加しました。外国直接投資は前年同期比で13.4%増加し、特に工業製造業と技術部門が投資の中心です。政府は今年の成長目標を6-6.5%に設定し、公共投資、国内消費、輸出の推進に力を入れています。主要な成長セクターには工業製造、ヘルスケア、技術が含まれ、デジタル経済も急速に拡大しています。ベトナム経済は世界経済の不確実性や制度改革の課題に直面していますが、課題に対応しつつ、持続的な成長を維持しています。

### 2. ベトナム人材の来日状況と日本が人気の理由

2024年時点で、日本国内の外国人労働者は200万人を超え、そのうちベトナム人は51万人で全体の25%を占めています。特に兵庫県では、外国人労働者5万人のうちベトナム人が40%を占めており、全国平均を上回る高い比率となっています。このようにベトナム人は在日外国人の中で大きなグループを形成しており、ニュースでも度々取り上げられる存在です。今後、日本社会においてベトナム人との関係構築は不可欠となるでしょう。

兵庫県は、ベトナム人材に対して積極的な施策を展開しています。昨年12月、齋藤兵庫県知事がホーチミンを訪問し、ベトナム人材との交流や視察を行いました。



齋藤知事がホーチミン市工科大学を訪問

最高学府であるホーチミン市工科大学を訪れ、大学関係者と意見交換を行い、日本語を学習する優秀なベトナム人学生たちとの交流も実現しました。これにより、近い将来、兵庫県での彼らの受け入れがより現実的なものとなると思われます。

私がホーチミン市で経営するIVS社でもIT系の大学との産学連携を進めています。当初はITエンジニアの確保を目的に、メコンデルタのカントー市や中部のニャチャン市の大学と提携しオフィスを設置して社員を雇用していましたが、昨年からはホーチミン市内でもホーチミン市工科大学やHUTCH大学と協力協定を締結しました。これは単にITエンジニアの確保だけでなく、ITの高度人材を育成するための相互協力を目的としています。高度人材以外にも、日本国内のベトナム人は急増しており、技能実習生や留学生として来日し、農業・建設・製造業・飲食業などで働いています。また、特定技能制度の利用も増加中です。

近年、急激な円安の影響やベトナムの発展により、ベトナム人が日本に来ることにネガティブな意見もあります。しかし、来日するベトナム人の数からも分かるように、日本で働く意欲は依然として高いものがあります。私も提携先の大学で日本語を学習する学生たちに質問してみましたが、欧米、特にアメリカに行きたいという希望もあるものの、渡航や生活のハードルが高いと感じているようです。その点、日本はベトナム人にとってコミュニティが十分に形成されており、友人や先輩・親戚も多く、非常に行きやすい国となっています。

このように日本とベトナムの関係は非常に密接であり、特に兵庫県は長年ベトナム人が多く住む親しみのある場所となっています。これからもより多くのベトナム人材が日本、そして兵庫県で活躍できることが期待されています。

### 3. サイゴンメトロ1号線開通なるか？

最後に、今年のホーチミン市での最大のトピックは、初めての都市交通であるサイゴンメトロ1号線の開通です。すでにメディアでも報道されているとおり、第4四半期での開通が予定されています。何度も延期されてきた地下鉄の開通は、ホーチミン在住の日本人としても、もはや交通の便というよりはよいよ街が本当の都市になるマイルストーンとして捉えています。仮に開通が叶っても、他の路線ができるまではまだまだ利用者は増えないと考えられます。それでも地下鉄が通ること自体に意味があり、ホーチミン市が本当の意味でのシティになる日を心待ちにしていました。今後も日本の労働力として期待されるベトナム人材や、都市交通が走る新たなホーチミンシティをぜひ見に来てください。

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界10カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。